

課題：改植による果樹産地の活性化対策（ナシ）

ねらい

ナシの主力品種「幸水」「豊水」の老木化による樹勢低下に加え、夏秋季の高温干ばつ、冬期の温暖化などにより、ナシの生産量は減少しています。

また、萎縮病やヒメボクトウなどの枝幹病害虫による被害が多く、被害樹の改植を推進してきましたが、補植程度で本格的な改植には至っていません。

そこで、早期成園化技術を用いた改植と枝幹病害虫防除対策を推進・普及させることでナシ産地の活性化を図りました。

活動地域・対象

鳴門市、板野郡ナシ生産者

普及活動の目標

改植対策及び枝幹病害虫防除対策が現場に定着し、ナシの生産性が向上する。

- ・ 早期成園化技術を用いた改植対策実践農家数 50戸以上育成
- ・ 枝幹病害虫防除対策普及率 50%以上

目標に向けた活動概要

- 1) 防除対策の実証
 - ・ 現地試験実証ほ5カ所（ヒメボクトウ交信攪乱）
 - ・ 現地調査5カ所（ヒメボクトウ交信攪乱）
- 2) 改植園の防除対策の普及（ヒメボクトウ）
 - （1）防除対策技術の普及と実践農家の育成
 - （2）対策マニュアルの検討
- 3) 新しい早期成園化技術の普及
 - ・ 現地試験実証ほ2カ所（不織布ポットを利用した大苗育苗）
- 4) 推進品種の検討
 - ・ 検討会
 - ・ 現地試験（果樹研究所育成1系統、2カ所）＋新規1系統追加予定

普及活動の成果

- ・ 改植対策実践農家数
大苗育苗導入農家数 47戸／50戸 達成度94%
- ・ 枝幹病害虫防除対策普及率
新農薬の導入等 40戸／100戸 達成度80%（40／50%）



ナシ大苗による改植状況



不織布ポット大苗育苗
(農産園芸研究課協力)



ヒメボクトウ防除技術の実演
(鳴門藍住農業支援センター協力)

用語
説明

今後の発展方向

- ・改植の推進については、現在県単事業の大苗育苗導入事業により推進していますが、今後は国補事業も視野に入れて推進を計画していきます。
- ・枝幹害虫ヒメボクトウについては、ナシ枝幹木質部の奥深く食い入る難防除害虫であるため、今後も唯一の登録農薬の普及を図るとともに、新合成フェロモン交信攪乱剤の早期登録を要請するとともに、現地実証を広域展開します。
- ・幸水、豊水に代わる有望品種がない中で果樹研究所育成の有望品種については積極的に現地試験に移します。

関係者からの声

(ヒメボクトウ交信攪乱現地試験実施農家)

試験開始から3年が経過し、交信攪乱の効果は十分確認。

しかし本枝幹害虫は食いってから2～3年は枝幹内で成長するため、加害の著しい園では1カ年程度の交信攪乱では効果がない。

現在現地試験中の新交信攪乱剤の早期の登録を求める。

交信攪乱を広域展開を求める。

(ヒメボクトウ新規登録農薬の使用農家)

枝幹害虫ヒメボクトウの枝幹注入薬剤は、比較的樹皮表面から浅い位置を加害している1～2年生の若齢幼虫については薬剤の効果は十分見えるが、形成層から木質部の奥深くに食い込んだものは防除効果が劣る。

(指導関係者)

改植のための更新品種については、幸水・豊水を凌ぐ品種がないのが現状であり、現在実施されている国補改植事業については同一品種への改植はできないため、県単大苗育苗事業で改植を実施している。果樹研究所の育成系統には高糖度のものが幾つか有り、早期の有望系統の選抜が望まれる。

高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel : 088-6 7 4-1 9 2 2